



プレミアグループ株式会社 **東証プライム 7199**

2026年 3 月期 第 1 四半期 決算説明資料

2025年8月8日



- 01 決算ハイライト
- 02 決算概要
- 03 ファイナンス事業
- 04 故障保証事業
- 05 オートモビリティサービス事業
- 06 カープレミアクラブ
- 07 その他進捗
- 08 Appendix



01 決算ハイライト

02 決算概要

03 ファイナンス事業

04 故障保証事業

05 オートモビリティサービス事業

06 カープレミアクラブ

07 その他進捗

08 Appendix

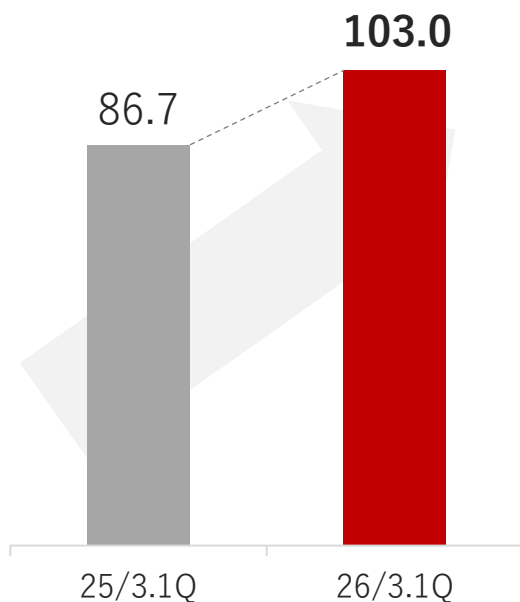
- 営業収益、営業利益、税引前利益のいずれも今期の業績予想通りの進捗
- 前期に発生したシステム障害への対応及び安定稼働のため、計画通り費用を投下（1Qの影響額は予想通り）
- 営業収益は引き続き安定的に成長し前年比+18.7%、システム障害による一過性の影響を除いた税引前利益は前年比+29.5%

業績

（グラフ単位：億円）

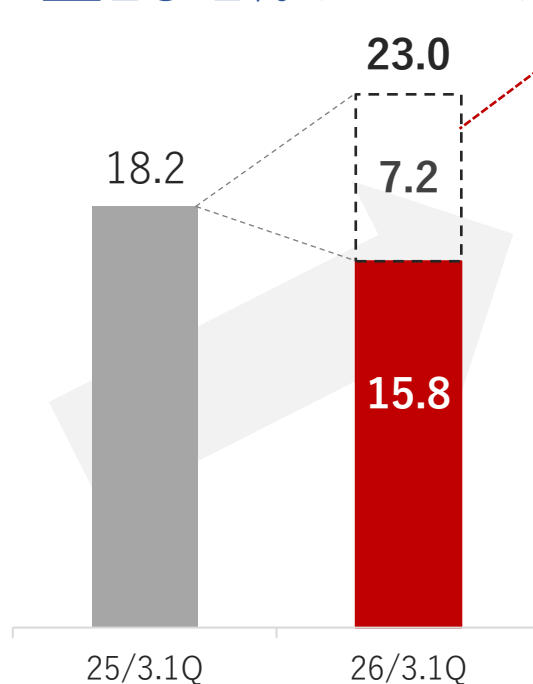
営業収益

前年比
+18.7%



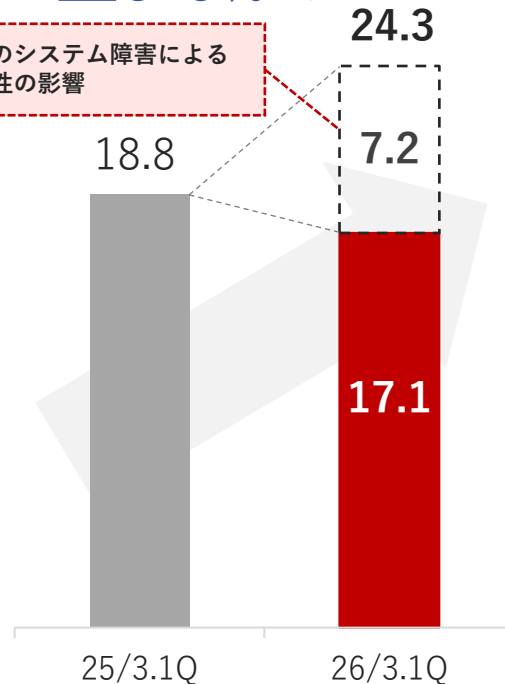
営業利益

前年比
▲13.1% (+26.4%)
一過性の影響を除く



税引前利益

前年比
▲9.0% (+29.5%)
一過性の影響を除く



将来収益（繰延収益）

全体

640億円
前年比 +15.0%

ファイナンス

548億円
前年比 +15.4%

故障保証

85億円
前年比 +12.5%

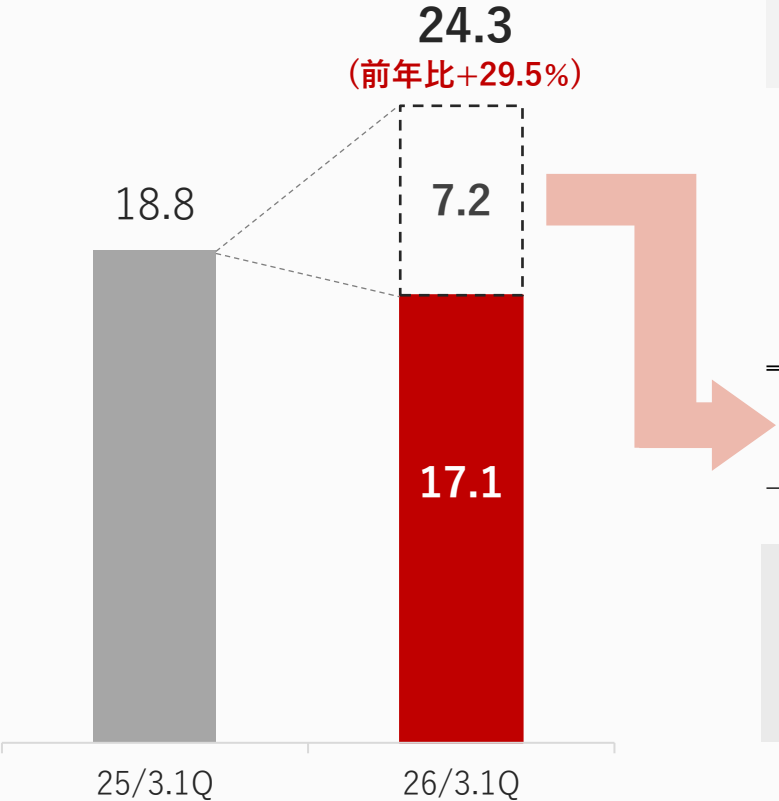
ソフトウェア事業・ カープレミアクラブ会費

8億円
前年比 +10.6%

- システム障害に伴う 1 Qの税引前利益への影響は▲7.2億円、今期の計画通りに推移
- 1 Q後半よりサービサー子会社との連携を強化。システム障害に起因する延滞債権の早期回収へ向け本格始動
- 業務は新旧システムの並行稼働により安定。新システムの再構築については計画通りに進捗

26/3.1Q 税引前利益(一過性の影響除く)

(グラフ単位：億円)



システム障害による影響額

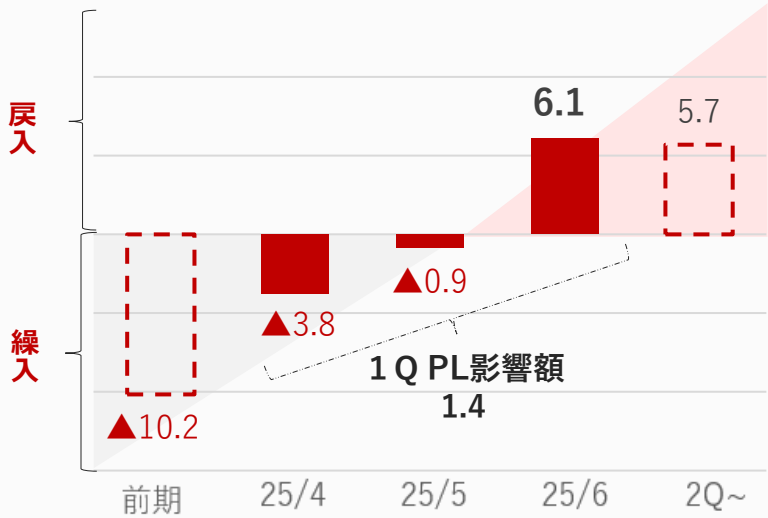
(単位：億円)

システム障害に伴う対応費用	26/3通期 (予定)	26/3.1Q (実績)
システム対応費用	16.6	6.7
外部委託費用等	2.6	1.9
貸倒引当金	▲7.1	▲1.4
合計(税引前利益への影響額)	12.1	7.2

✓システム対応費用6.7億円については、
新旧システムの並行稼働の確立に伴う、
保守運用費用が中心
2 Q以降は減少の見込み

貸倒引当金 (システム影響) 推移

(グラフ単位：億円)



✓前期発生 of 延滞債権の影響により、貸倒
引当金の追加計上が5月まで発生するも、
徐々に回収効果が表れ6月に戻入益6.1億円
を計上

(注) システム障害による前期の影響の詳細につきましては、2025年 3 月期開示の決算説明資料P.5をご参照ください。

- 新車販売台数は軽自動車の堅調な推移が下支えするも1桁伸び、中古車登録台数は横ばい
- カープレミアディーラーの稼働率向上及び大手販売店の取扱拡大が継続し、クレジット取扱高は2桁成長**
- 故障保証取扱高は利益率の高い自社商品を中心に伸長し2桁成長へ回復**

マーケット※

(グラフ単位：万台)

新車販売台数

前年比

+6.5%

中古車登録台数

前年比

+0.6%

クレジット取扱高

前年比

+15.0%

故障保証取扱高

前年比

+17.9%

KPI

(グラフ単位：億円)

クレジット取扱高

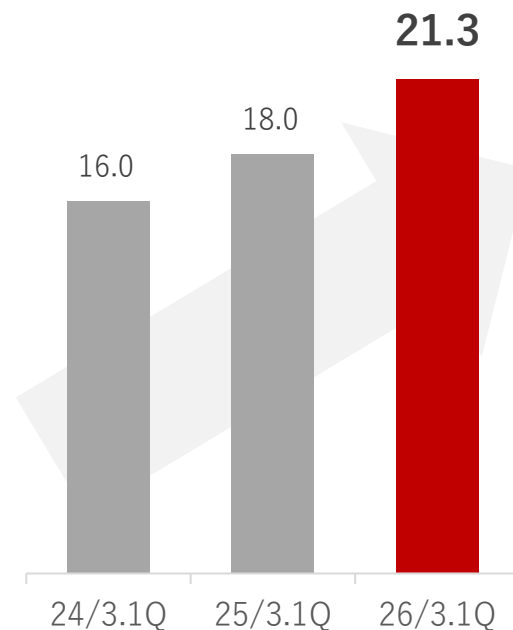
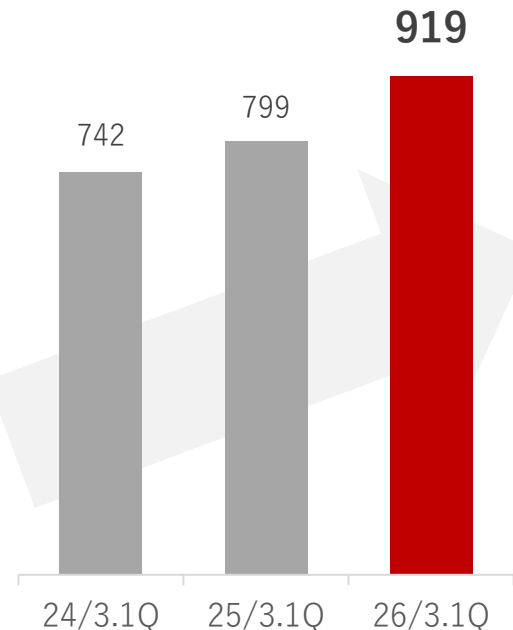
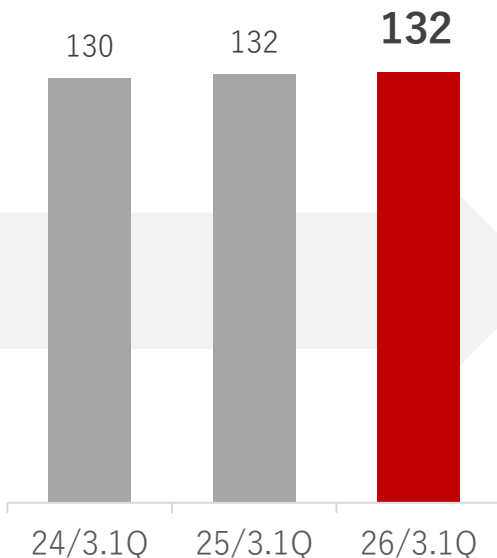
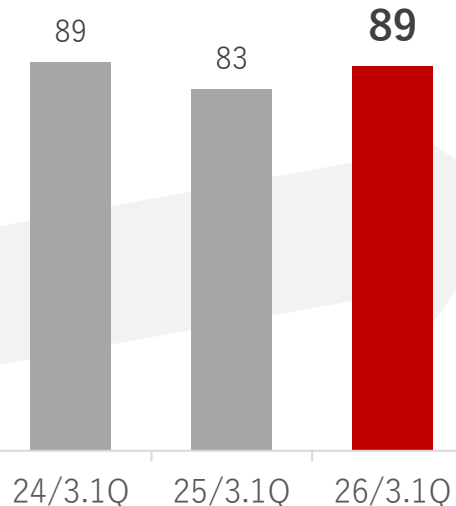
前年比

+15.0%

故障保証取扱高

前年比

+17.9%





01 決算ハイライト

02 決算概要

03 ファイナンス事業

04 故障保証事業

05 オートモビリティサービス事業

06 カープレミアクラブ

07 その他進捗

08 Appendix

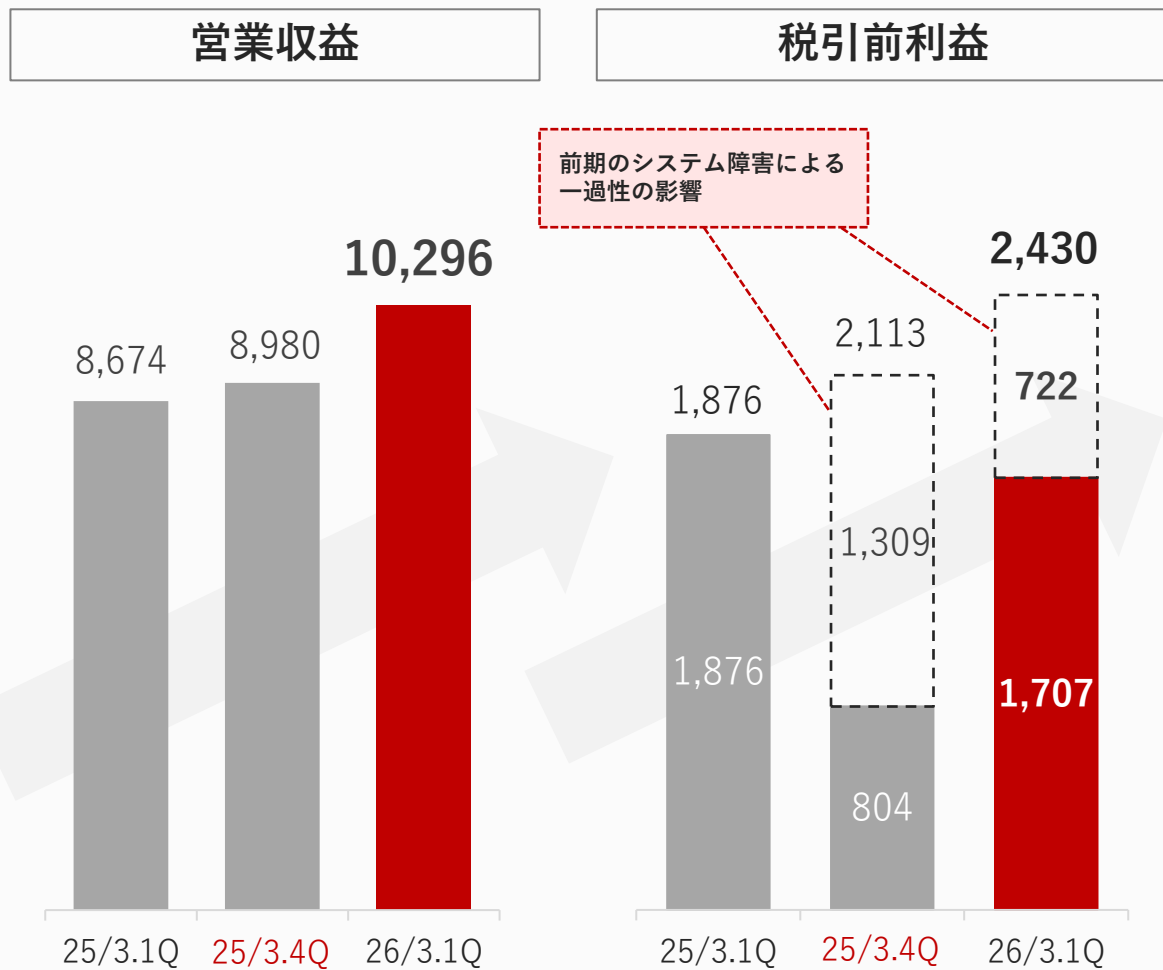
連結業績

(単位：百万円)



- ・ 営業収益は100億円超と**計画を上回る**。営業利益、税引前利益は**計画通りの推移**
- ・ 営業費用の増加は前期のシステム障害に伴う**対応費用の影響**。この費用は一過性であり**来期以降は発生しない**
- ・ これらの一過性の影響を除いた**税引前利益**は前年比**+29.5%**と大幅に伸長

	25/3.1Q	26/3.1Q	前年比
営業収益	8,674	10,296	+18.7%
営業費用	6,852	8,711	+27.1%
営業利益	1,823	1,585	▲13.1%
税引前利益	1,876	1,707	▲9.0%
税引前利益 [一過性の影響を除く]	[1,876]	[2,430]	[+29.5%]
親会社の所有者に 帰属する当期利益	1,274	1,214	▲4.7%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	33.62	31.93	▲5.0%



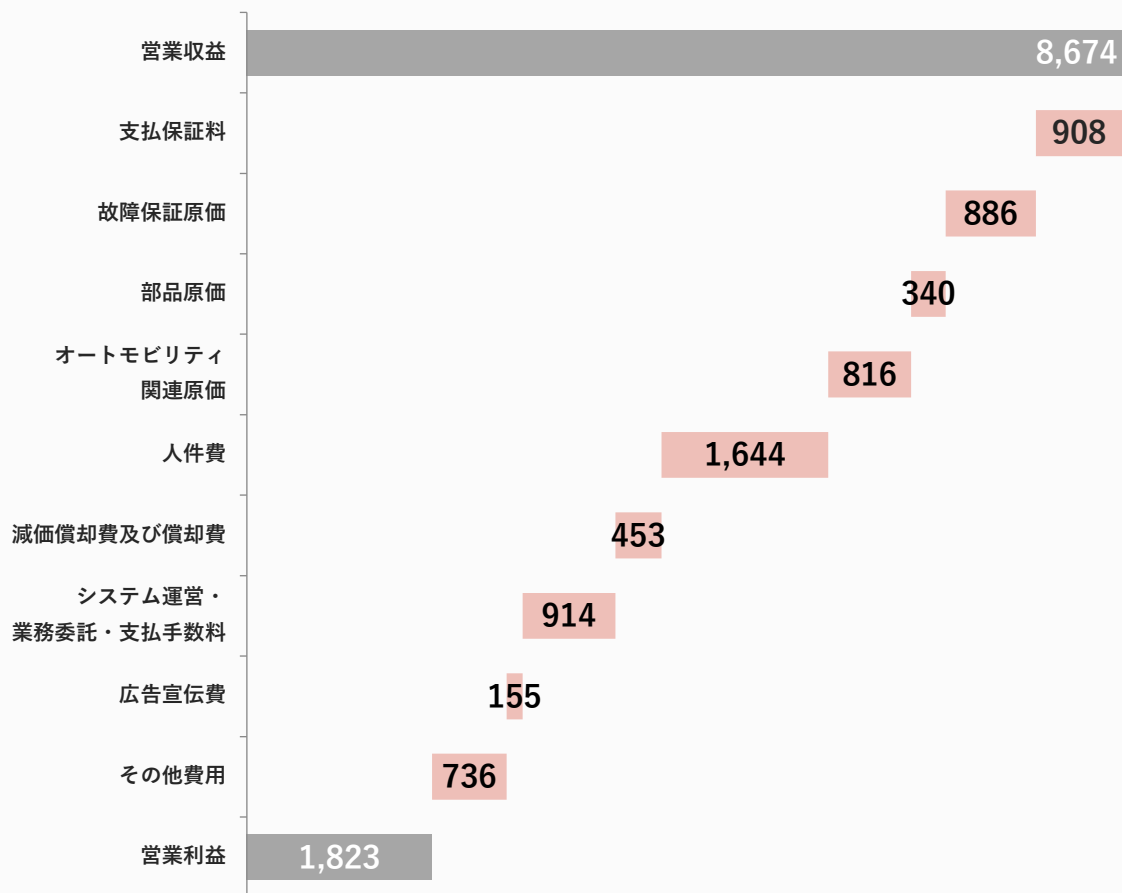
営業費用（内訳）の推移

（単位：百万円）

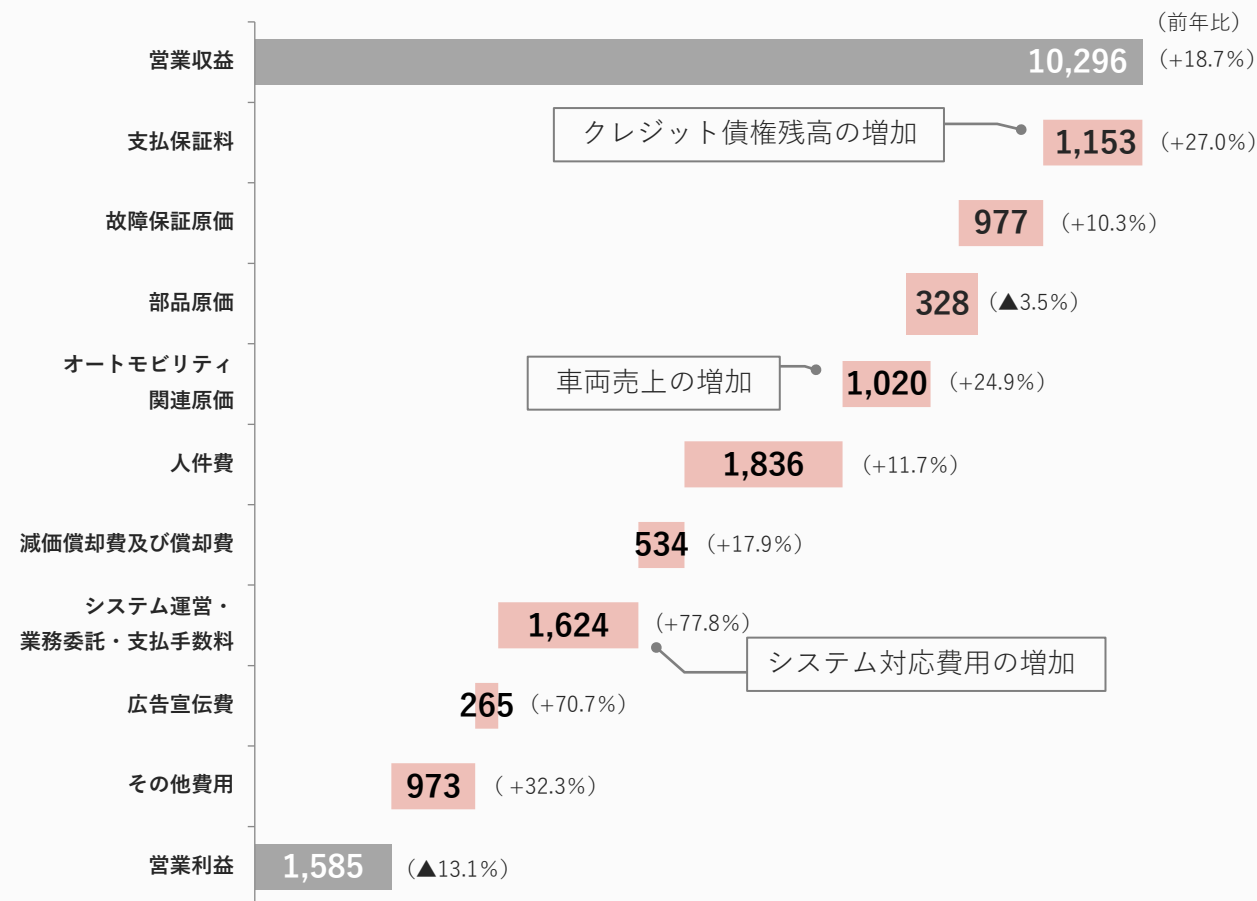


- システム対応費用等を除いた場合の**営業費用**は前年比**+16.6%**の79.8億円となり、**費用効率化**の取り組みは**継続**

25/3.1Q 営業費用 6,852百万円



26/3.1Q 営業費用 8,711百万円（前年比 +27.1%）



（注） 1. 速報値のため、修正・変更が生じた際は当社HP上にて速やかにお知らせいたします。
2. 2025年3月期の通期決算説明資料にて金融資産の減損損失の項目は、2025年及び2026年3月期 第1四半期に発生がないため、本資料では削除しております。

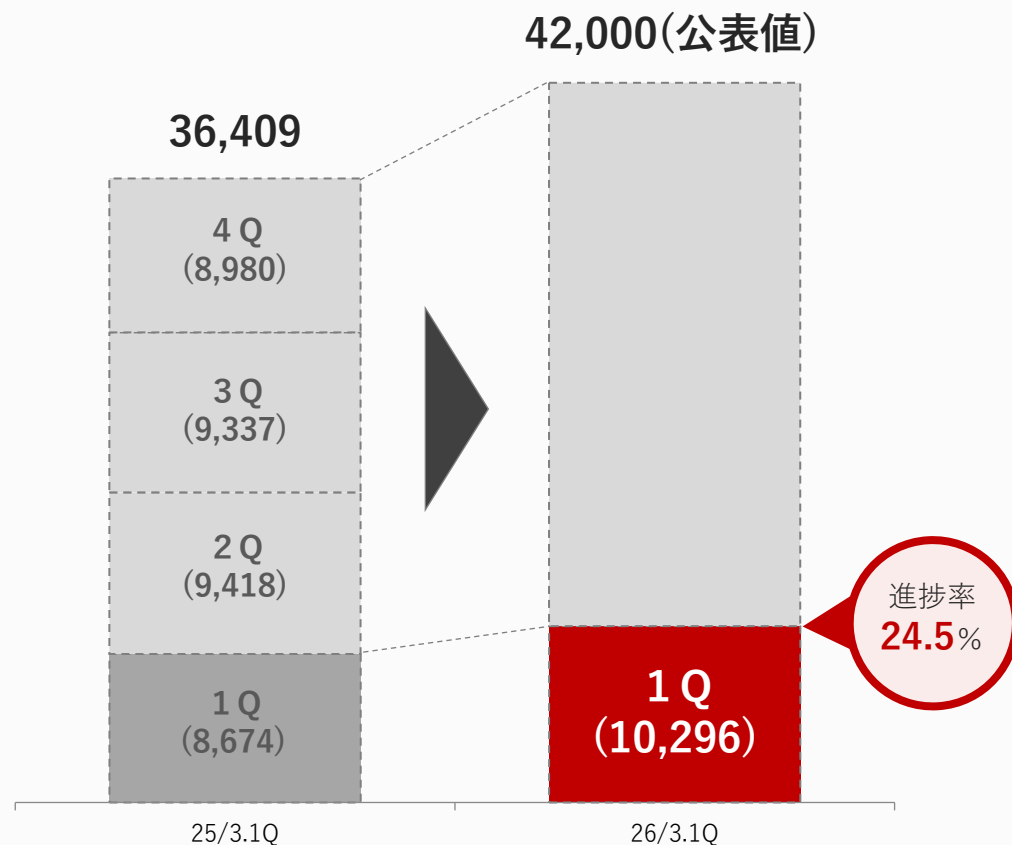
通期業績見通し

(単位：百万円)

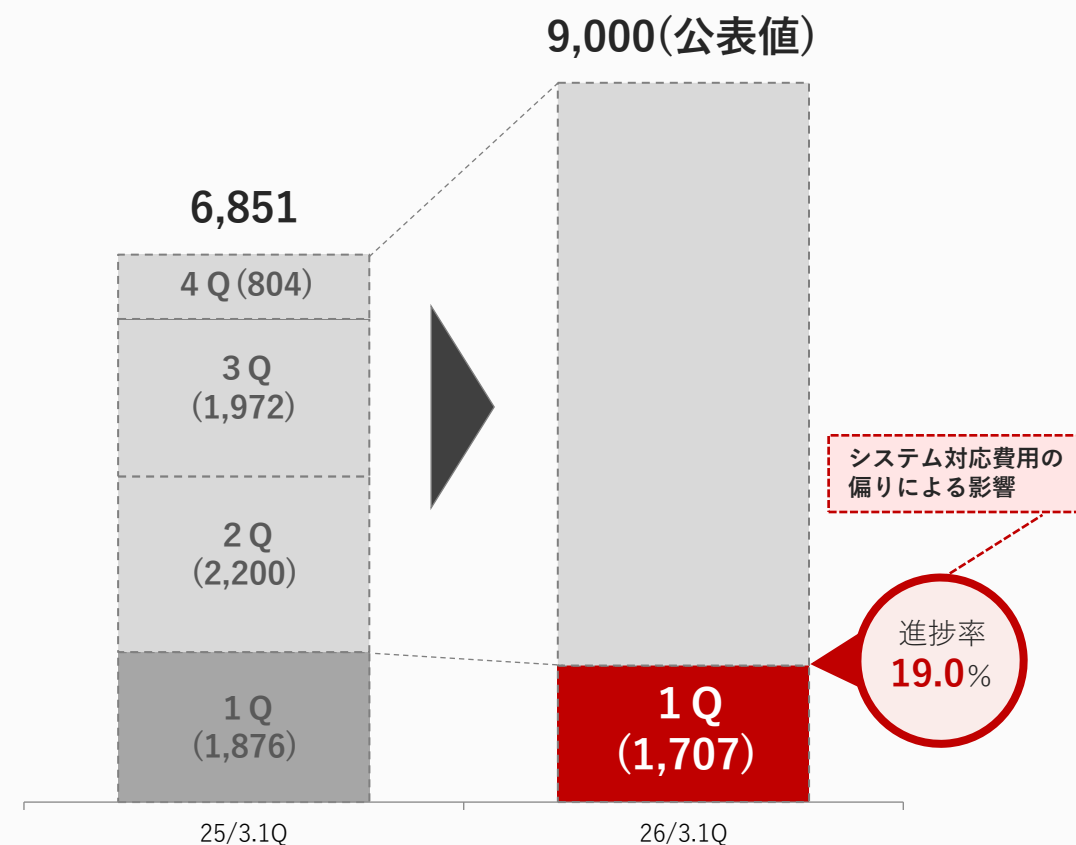


- 営業収益・税引前利益ともに、今期の業績予想に沿って推移
- 主要3事業においてトップラインは堅調に推移、貸倒引当金の戻入益も計上予定
1Qはシステム対応費用が偏って発生するも、2Q以降はシステム対応費用が減少し、税引前利益の進捗率は向上の見込み

営業収益



税引前利益





01 決算ハイライト

02 決算概要

03 ファイナンス事業

04 故障保証事業

05 オートモビリティサービス事業

06 カープレミアクラブ

07 その他進捗

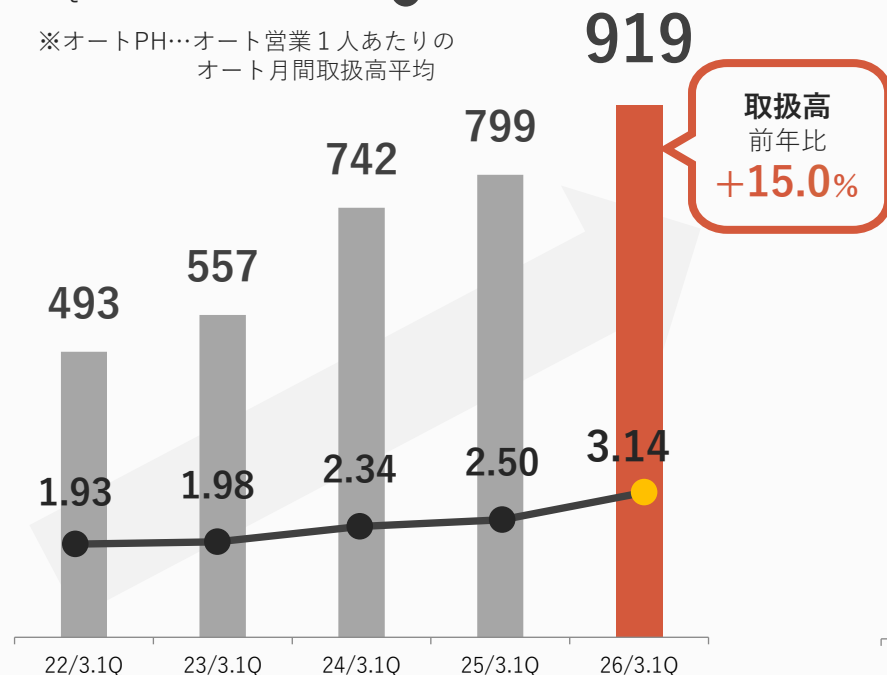
08 Appendix

- カーププレミアディーラーの**着実な会員数増加**と**稼働率の向上**を背景に、**クレジット取扱高**は前年比**+15.0%**
- クレジット債権残高が**8,000億円**を**突破**、取扱高の伸びが債権残高の**積み上げ**を加速
- システム障害に伴い延滞債権残高率は上昇するも、新旧システムの並行稼働により**債権回収プロセス**は**正常化**しており、延滞債権残高率は今後**減少**見込み。**保険料が今後大幅に上昇する懸念はなし**

クレジット取扱高

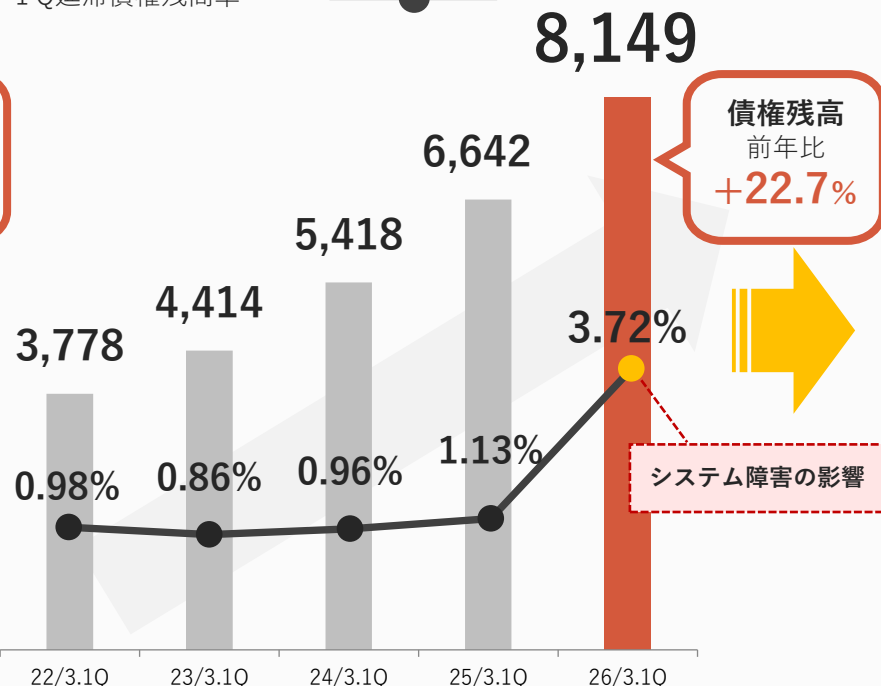
1 Qクレジット取扱高
1 QオートPH

※オートPH…オート営業1人あたりの
オート月間取扱高平均

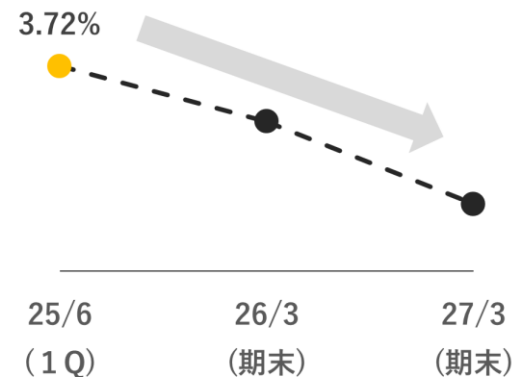


クレジット債権残高

1 Qクレジット債権残高
1 Q延滞債権残高率



延滞債権残高率の推移 (イメージ)



- ✓ 延滞債権残高率の正常化には**時間を要するものの、正常化の道筋を確保**
- ✓ 保険金請求ポジションには至らず、**保険料への影響はなし**

(注) 1. クレジット取扱高とは、その期間で新たに締結したクレジット契約及びリース保証契約金額の総額です。オートクレジット以外の商品（エコロジッククレジット等）の取扱高も含めた値であり、プレミア(株)の実績です。

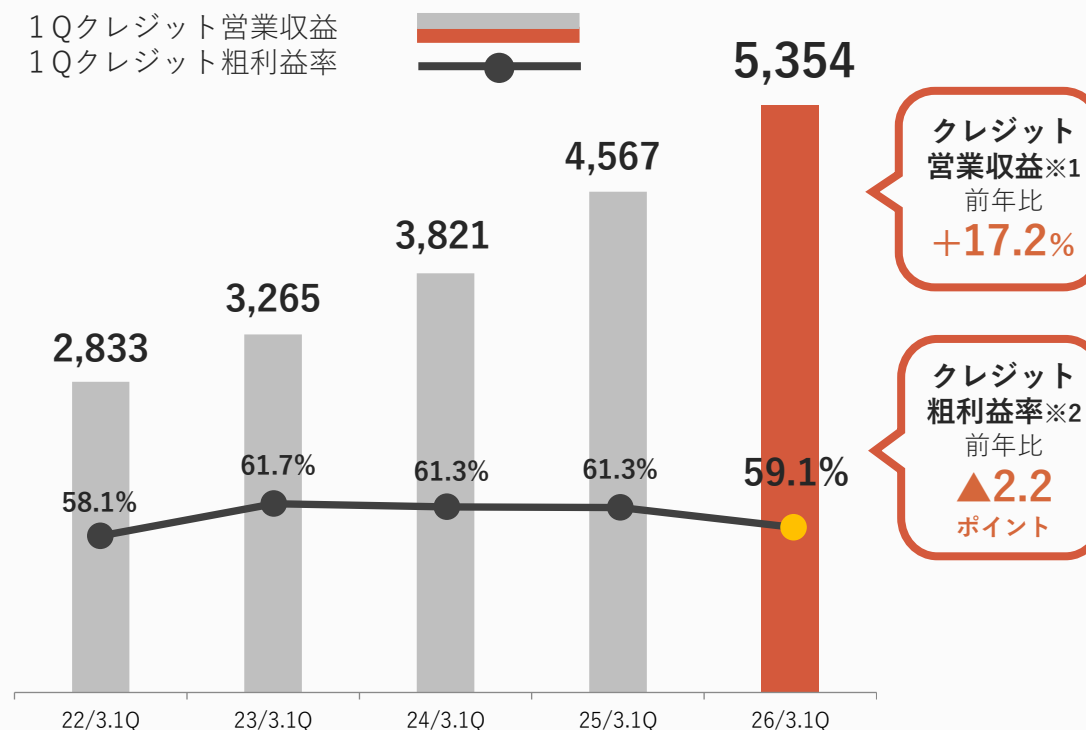
2. クレジット債権残高とは、開業から期末までの累計取扱高のうち、当該時点において返済されていない又は保証期間が経過していないクレジット契約金額及びリース保証契約金額の総額をいいます。

オートクレジット以外の商品（エコロジッククレジット等）の債権残高も含めた値であり、プレミア(株)の実績です。

3. 延滞債権残高率とは、当該期末時点のクレジット及びリース債権残高に対し、延滞月数が3ヵ月を超える債権及び特別債権（司法介入債権）の合計額が占める割合をいいます。

- システムの障害に伴う**一過性の影響**（7.2億円）があるも、同影響を除いた税引前利益は前年比**+28.8%**と堅調に推移
- クレジット粗利益率は低下するも、**クレジット残高の積み上げ**（前年比**+22.7%**）により、営業収益は前年比**+20.5%**と伸長
- 前期3月から実施の**金利転嫁の効果**により、クレジット粗利益率は**上昇基調に転じる**見込み

	25/3.1Q	26/3.1Q	前年比
営業収益	4,812	5,797	+20.5%
営業利益	1,220	843	▲30.8%
税引前利益	1,223	853	▲30.3%
税引前利益 [一過性の影響を除く]	[1,223]	[1,575]	[+28.8%]

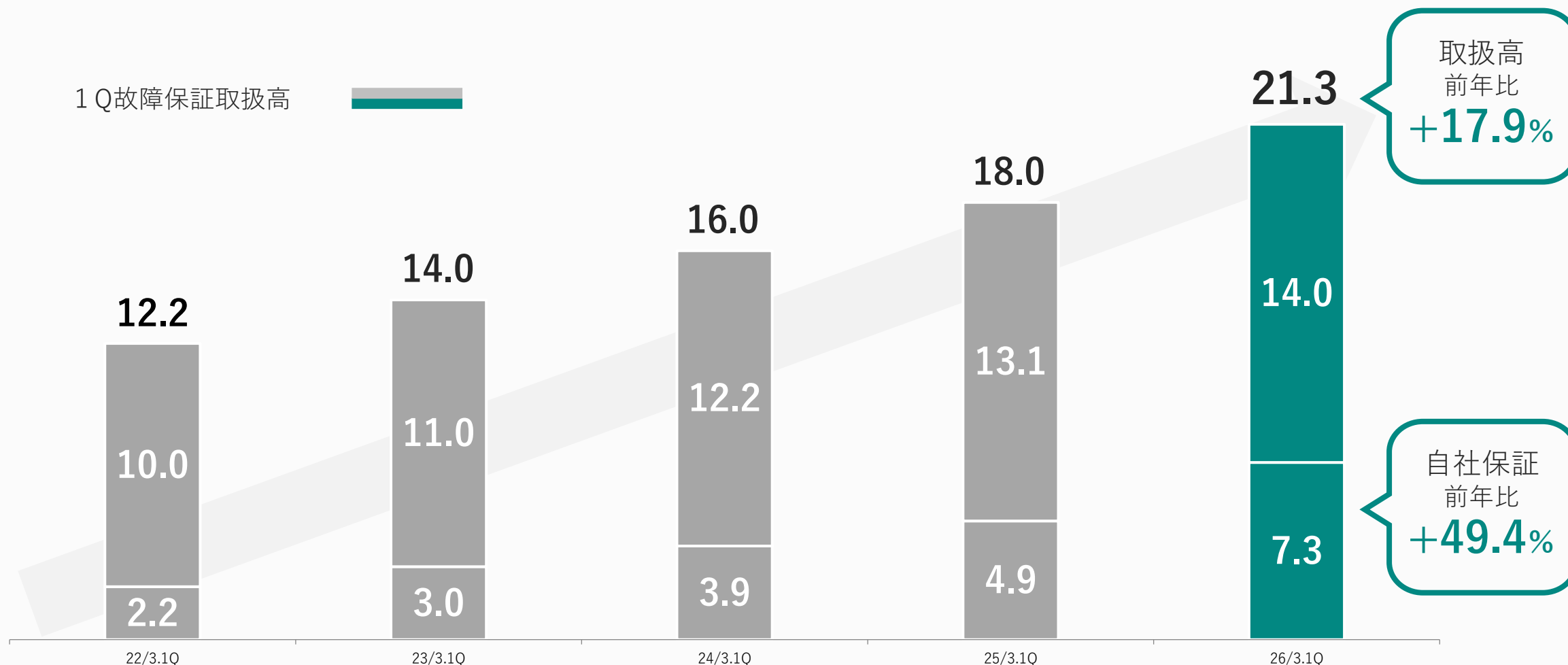


(※) 1.クレジットにかかる営業収益を集計しております。
 2.クレジットにかかる営業利益を、クレジットにかかる営業収益で除した実績です。
 なお、当該粗利益率算出時の営業費用は、クレジット獲得のために直接発生した費用（金利、保証料、人件費、地代家賃等）となります。



- 01 決算ハイライト
- 02 決算概要
- 03 ファイナンス事業
- 04 故障保証事業**
- 05 オートモビリティサービス事業
- 06 カープレミアクラブ
- 07 その他進捗
- 08 Appendix

- 保証利用先の**開拓**に加え、既存利用先との**信頼関係の深化**により、件数だけでなく**1加盟店あたり**の取引金額も**増加**
- 中古車登録台数が横ばいで推移する中、取扱高は前年比**+17.9%**と**高成長**
- 自社保証**は前年比**+49.4%**と**圧倒的な成長**。低調であった**OEM保証**についてもアフターフォローの強化により**回復傾向**

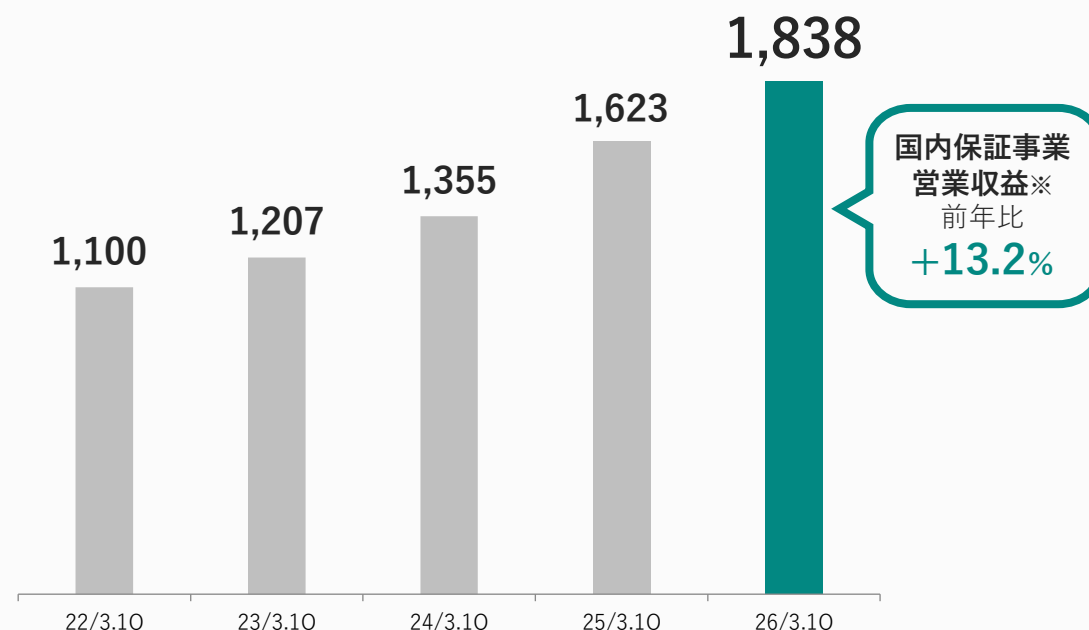


(注) 1. 故障保証取扱高とは、その期間で新たに締結した保証契約金額の総額です。
2. 棒グラフの下段は自社保証商品、上段はOEM保証商品を表しております。

- 営業収益は2桁成長と順調に推移。また1Qの取扱高は高成長をしており、**収益拡大に向けた基盤を着実に構築**
- 営業費用は広告費等の販管費が増加するも、継続した**原価低減**の取り組みにより、**税引前利益は2桁成長**

	25/3.1Q	26/3.1Q	前年比
営業収益	1,673	1,889	+12.9%
営業利益	312	358	+14.8%
税引前利益	333	391	+17.4%

1Q国内保証事業営業収益



(※) 国内保証事業営業収益は、海外の実績を除いております。



- 01 決算ハイライト
- 02 決算概要
- 03 ファイナンス事業
- 04 故障保証事業
- 05 オートモビリティサービス事業**
- 06 カープレミアクラブ
- 07 その他進捗
- 08 Appendix

- ・ **カープレミアクラブ**の営業収益は会費値上げの効果がなくなるも、前年比**+30%以上**の**高成長を維持**
- ・ 車両販売（BtoB）における**相場価格の下落の影響**を受け、台あたり粗利が減少
- ・ ソフトウェア販売は**受注と納品のタイムラグ**により営業収益・利益ともに減少するも、2Q以降**巻き返し**の見込み
- ・ オートモビリティサービス事業については、体制を見直し2Q以降更に基盤の強化を図る

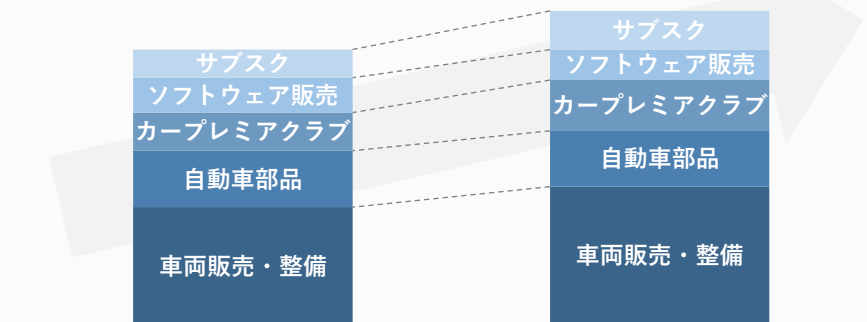
オートモビリティサービス事業 営業収益

	25/3.1Q	26/3.1Q	前年比
営業収益	2,186	2,485	+13.7%
営業利益	297	264	▲11.3%
税引前利益	293	262	▲10.5%

その他利益低下の要因

- ・ 広告宣伝を1Qに集中して実施（前年比+73.5%）：▲61百万円
- ※広告宣伝費については通期計画の範囲内で収束予定

前年比
+13.7%



25/3.1Q
カープレミアクラブ
前年比
+33.2%

26/3.1Q
サブスク（リース）
前年比
+37.4%

ソフトウェア販売
前年比
▲12.8%

車両販売・整備
前年比
+17.5%

自動車部品
前年比
▲1.3%



- 01 決算ハイライト
- 02 決算概要
- 03 ファイナンス事業
- 04 故障保証事業
- 05 オートモビリティサービス事業
- 06 **カープレミアクラブ**
- 07 その他進捗
- 08 Appendix

- ・ **カープレミアディーラーとガレージの合計数が4,500社/店舗を突破**、国内最大級のネットワーク構築に向け拡大を継続
- ・ カープレミアディーラーは新規獲得と退会抑止の取り組みが奏功し、前年比 **+30%**以上の成長を維持
- ・ **広告展開とカープレミアアプリ※導入**により、モビリティ事業者・お客様双方への認知を高め、さらなる会員獲得を目指す

カープレミアディーラー（自動車販売店）

前年比 **+962社**
3,690

2,728

ダイヤモンド会員
457社 (+178社)

ゴールド会員
3,233社 (+784社)

25/3.1Q

26/3.1Q

カープレミアガレージ（自動車整備工場）

前年比 **+83店舗**
866

783

ダイヤモンド会員
29店舗 (▲2店舗)

ゴールド会員
837店舗 (+85店舗)

25/3.1Q

26/3.1Q

(注) カープレミアクラブとは、当社グループの自動車販売店向け会員組織「カープレミアディーラー」と自動車整備工場向け会員組織「カープレミアガレージ」の総称です。

(※) カープレミアアプリとは、カーライフに必要な情報をスマートフォンで簡単に管理できる、当社グループの新サービスです。

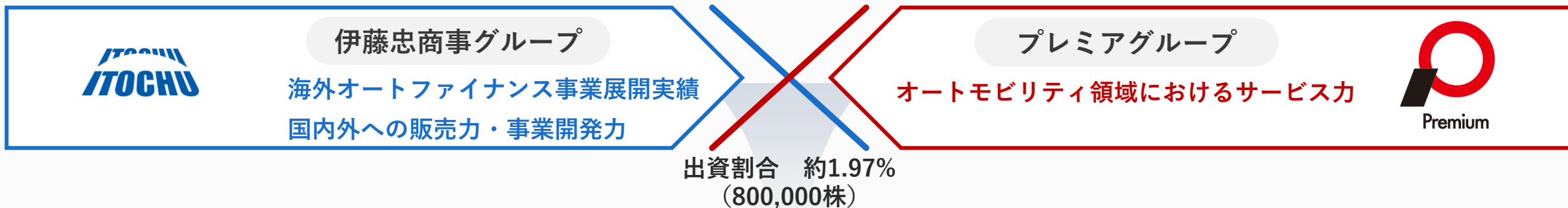


- 01 決算ハイライト
- 02 決算概要
- 03 ファイナンス事業
- 04 故障保証事業
- 05 オートモビリティサービス事業
- 06 カープレミアクラブ
- 07 その他進捗**
- 08 Appendix

伊藤忠商事株式会社と資本業務提携



国内と海外の圧倒的な**中古車領域経済圏の構築**、**モビリティ領域のさらなる拡大**を目的として、
伊藤忠商事株式会社と資本業務提携契約を締結



『伊藤忠商事グループ』 × 『プレミアグループ』 業務提携の効果

当社グループの商品、サービスを伊藤忠商事グループへ導入及び販売

- ✓ 伊藤忠商事グループが有する川下戦略などの経営資源を活用し、当社グループの事業領域の拡充と競争力の強化

オートファイナンス、故障保証、及びオートモビリティ領域の共同事業展開、新規ビジネス創出

- ✓ 国内外の各領域において、互いの企業価値向上に資する協業を推進

①現時点での伊藤忠商事グループとの取り組み

- ✓ タイ王国のEastern Commercial Leasing p.l.cの一部株式を共同で取得。
同社のオートファイナンス事業の拡大支援と経営改革を推進

② 今後の展望

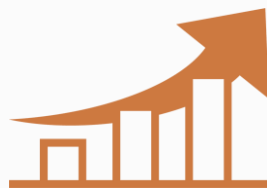
- ✓ 今回の資本業務提携を通じて国内外における**両社の強み**を活かした**戦略的な事業展開**を検討・実施
- ✓ 当社の強みである**独立系の立場を維持**しつつ、持続的な成長を目指す

中期経営計画進捗（3年目）

	26/3中計	26/3.1Q実績	進捗率
営業収益	44,000	10,296	23.4%
税引前利益	10,200	1,707	16.7%
税引前利益 [一過性の影響除く]	[10,200]	[2,430]	[23.8%]

▶ 中期経営計画「ONE&ONLY 2026」の詳細は[こちら](#)

トピックス



クレジット債権残高
8,000億円突破

- クレジット取扱高は順調に拡大。
これにより債権残高の積み上げが加速し、
7,000億円から**8,000億円**への到達を**短期間で実現**

▶ リリースは[こちら](#)



DX銘柄2025
Digital Transformation

DX銘柄
初選定

- 企業価値向上に資するDX推進の取り組みが
評価され、3年連続の『DX注目企業』を経て、
初めて『DX銘柄』に選定

▶ リリースは[こちら](#)

カープレミアクラブ会員数 (単位：社/店舗)

カープレミアディーラー 進捗率：**73.8%**

3,690

2026年3月期中計目標
5,000社

カープレミアガレージ 進捗率：**57.7%**

866

2026年3月期中計目標
1,500店舗

手のひらに”あんしん”を

カープレミア
アプリ



カーライフをもっと便利に、
安心に

- カーライフに必要なあらゆるサービスを
スマートフォン1つで管理できる、
「**カープレミアアプリ**」の提供を開始

▶ リリースは[こちら](#)



- 01 決算ハイライト
- 02 決算概要
- 03 ファイナンス事業
- 04 故障保証事業
- 05 オートモビリティサービス事業
- 06 カープレミアクラブ
- 07 その他進捗
- 08 Appendix**

社名	プレミアグループ株式会社
証券コード／市場	7199 ／ 東京証券取引所市場プライム市場
設立	2015年5月25日 ※2007年 プレミア株式会社設立（旧社名：株式会社ジー・ワンクレジットサービス）
本社	東京都港区虎ノ門2-10-4 オークラプレステージタワー
代表取締役社長	柴田 洋一
発行済株式数	40,540,170株 2025年6月末時点
資本金	1,683百万円 単体／2025年6月末時点
従業員数	864名 連結／2025年6月末時点（※）臨時雇用者を除くグループ従業員数
グループ内容	国内及び海外※における各事業 ・ファイナンス事業 ・故障保証事業 ・オートモビリティサービス事業 ・カープレミア(自動車販売店、自動車整備工場の会員組織構築) ※海外（タイ王国、インドネシア共和国、フィリピン共和国等）

事業内容



- プレミアグループは、自動車販売店や自動車整備工場の皆さまと一緒にお客様に豊かなカーライフを届けるオートモビリティ企業です

事業セグメント

ファイナンス事業

主な事業

- ・オートクレジット
- ・エコロジッククレジット
- ・ショッピングクレジット
- ・サービサー

主な取引先

- ・自動車販売店

故障保証事業

主な事業

- ・自動車の故障保証事業
- ・故障保証事業の海外展開
(タイ、インドネシア、フィリピン)

主な取引先

- ・自動車販売店、自動車整備工場

オートモビリティサービス事業

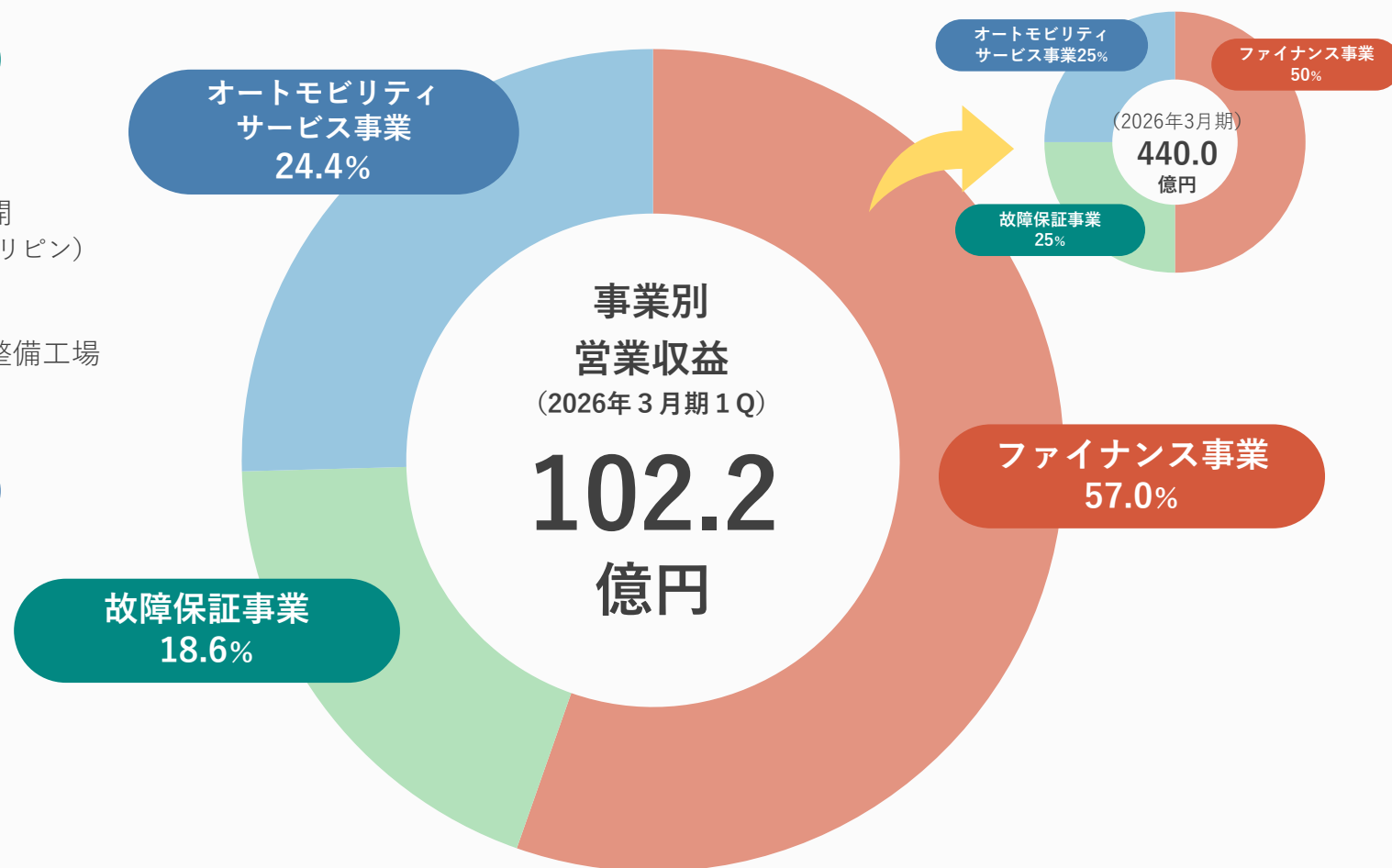
主な事業

- ・会員組織「カープレミアクラブ」の運営
- ・車両卸販売
- ・業務用ソフトウェア販売
- ・オートリース
- ・自動車整備工場の運営
- ・国内外への中古パーツ販売

主な取引先

- ・自動車販売店、自動車整備工場

セグメント別ポートフォリオ



セグメント別業績一覧

2026年 3 月期 1 Q

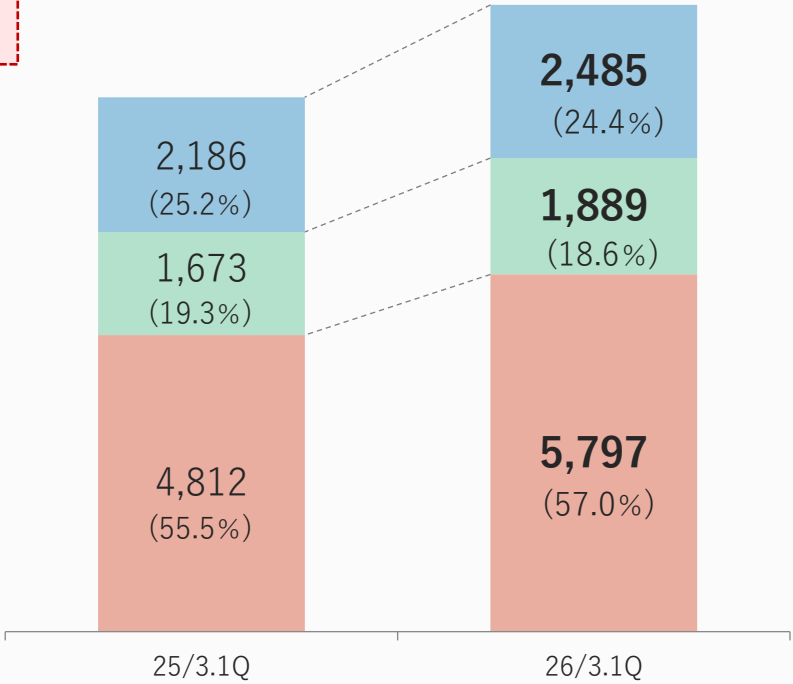
営業収益 営業利益 税引前利益

ファイナンス事業	5,797 前年比 +20.5%	843 前年比 ▲30.8%	853 前年比 ▲30.3%
故障保証事業	1,889 前年比 +12.9%	358 前年比 +14.8%	391 前年比 +17.4%
オートモビリティサービス事業	2,485 前年比 +13.7%	264 前年比 ▲11.3%	262 前年比 ▲10.5%

営業収益

ファイナンス 故障保証 オートモビリティサービス

一過性費用を除く
[1,575]
前年比+28.8%



中期経営計画「ONE & ONLY 2026」 Summary



中期ビジョン

ONE & ONLYのオートモビリティ企業を目指して、
カープレミア事業モデルの確立

数値目標（2026年3月期）

営業収益

440億円

23/3比 +74.6%

税引前利益

102億円

23/3比 +91.0%

当期利益

70億円

23/3比 +75.0%

ROE

30%台

23/3実績 34.7%

時価総額

1,400~1,750億円

23/3比 204~255%

重要課題



カープレミア

- ・カープレミアクラブの拡大
- ・カープレミアブランドの確立
- ・リアル／ネットの集客力強化



ファイナンス

- ・カープレミアディーラーを拡大
- ・加盟店当たりの取引量増加



故障保証

- ・第三者保証市場の拡大
- 自社商品中心に拡販
- ・修理原価の低減



モビリティ
サービス

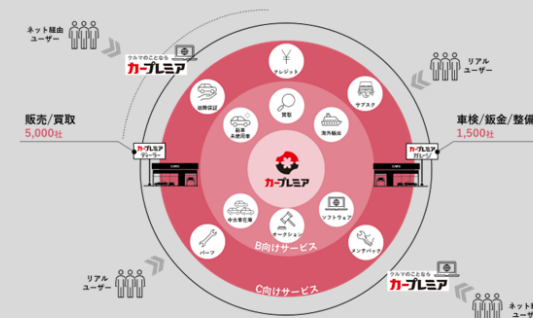
- ・モビリティサービスの拡充
- ・モビリティ各事業の規模拡大
- ・差別化商品の開発

・取扱拡大

- ・DX人材の強化
- ・DXへ継続投資

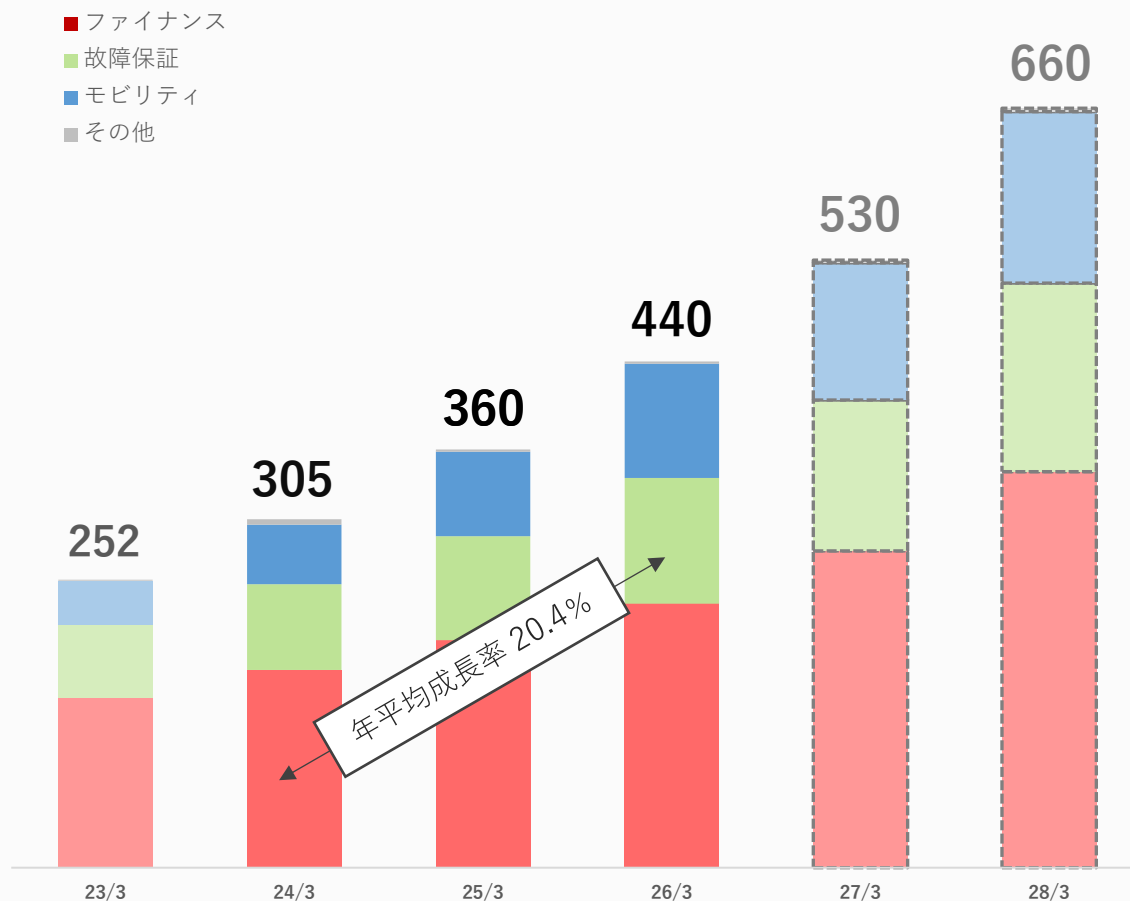
- ・DX推進による
業務効率化および
省力化実現

カープレミア 事業モデルの確立



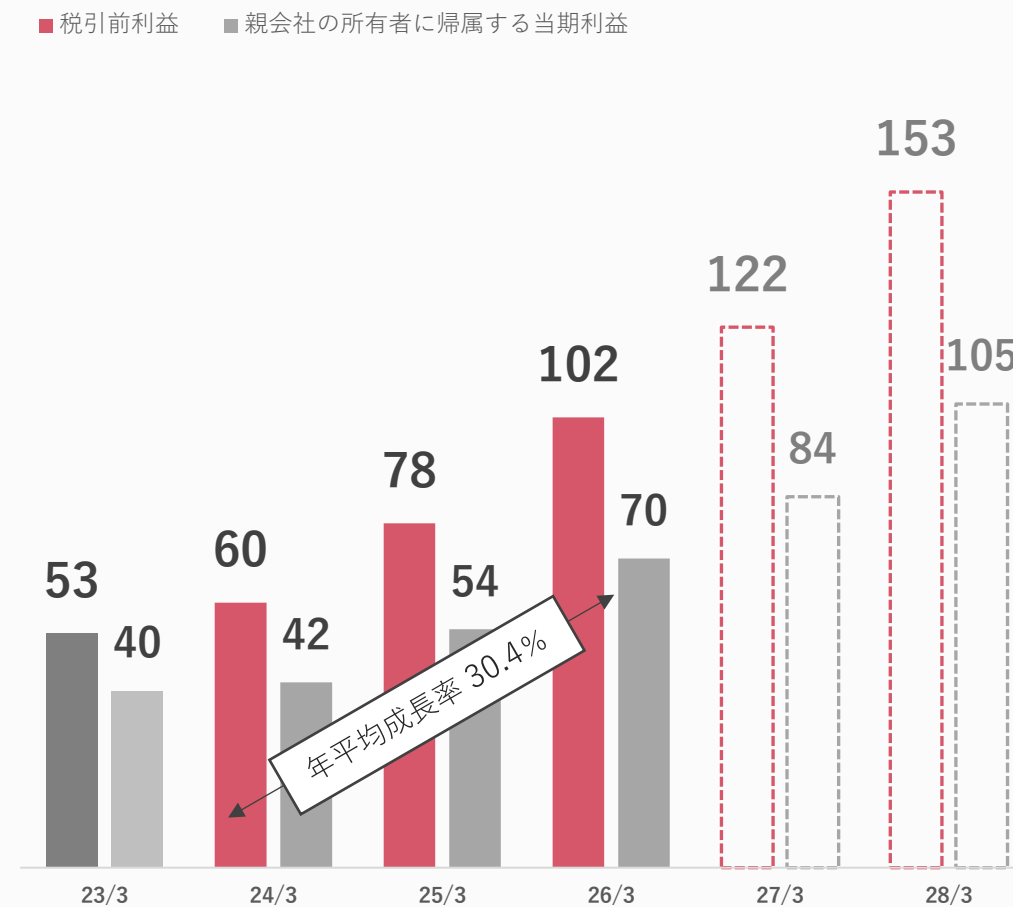
営業収益

(億円)



税引前利益／当期利益

(億円)



(24/3 3Q)カープレミアあんしんショップ制度をリリース



- お客様が安心して商品やサービスを受けられる制度「カープレミアあんしんショップ」を2024年1月29日より開始

カープレミアあんしんショップとは

全てのお客様がお取引内容を理解・納得いただけるよう
「あんしん宣言」を掲げサービス提供するお店

- ✓ 当社の基準をクリア
- ✓ あんしん宣言／規約同意
- ✓ カープレミア点検の実施

カープレミア
あんしんショップ

- ✓ あんしんサービスの提供
- ✓ カープレミアサイトで上位表示

カープレミアクラブ
ゴールド会員

カープレミアクラブ
ダイヤモンド会員

あんしん宣言・サービス内容



車両購入のあんしん宣言



購入・作業内容を十分理解し、納得できるよう正確で詳細な説明を実施します

車両購入後14日以内の不具合修理をカープレミアが最大**30**万円までお支払い



車両整備のあんしん宣言



安心して乗れるようカープレミアで点検を実施し、納車します

車両整備後14日以内の不具合修理をカープレミアが最大**30**万円までお支払い

カープレミアディーラー
オートクレジット割合※1

前年比
+21.9ポイント

63.8%

有料会員の増加による
堅調な増加推移を維持

営業人員数

前年比
▲4名※2

95名

営業人員PH※3の増加に注力し、
(仕組化や営業活動の効率化)
大幅な増員は予定せず

AI審査判定率

前年比
▲1.1ポイント

36.7%

審査の精度をさらに向上させ
審査時間の削減や判定の標準化を促進

(※) 1. 当社取扱いのオートクレジット取扱高のうち、自動車販売店向け会員組織「カープレミアディーラー」が占める割合です。

2. 今期第二四半期からの算出方法の変更に伴い、前年度の営業人員数を遡及しております。

3. PH（パーヘッド）とはオート営業1人あたりのオート月間取扱高平均です。

	25/3.1Q (2024年6月30日)	25/3 (2025年3月31日)	26/3.1Q (2025年6月30日)	前期末比	前Q比
資産の部					
現金及び現金同等物	18,267	17,159	22,989	+25.9%	+34.0%
金融債権	58,494	74,719	77,542	+32.6%	+3.8%
その他の金融資産	8,067	8,366	8,434	+4.5%	+0.8%
有形固定資産	3,423	5,396	5,389	+57.5%	△0.1%
無形資産	9,052	9,201	9,071	+0.2%	△1.4%
のれん	3,958	3,958	3,958	+0.0%	+0.0%
持分法投資	3,210	4,085	4,159	+29.6%	+1.8%
繰延税金資産	6	50	121	+1865.4%	+141.0%
保険資産	8,113	42,130	47,540	+486.0%	+12.8%
その他の資産	14,336	19,924	17,342	+21.0%	△13.0%
資産合計	126,926	184,988	196,545	+54.8%	+6.2%
負債の部					
金融保証契約	47,443	81,245	77,128	+62.6%	△5.1%
故障保証前受収益	7,509	8,055	8,451	+12.5%	+4.9%
借入金	41,969	51,188	70,495	+68.0%	+37.7%
その他の金融負債	7,968	16,686	13,320	+67.2%	△20.2%
引当金	393	436	524	+33.2%	+20.1%
未払法人所得税	476	1,821	290	△39.0%	△84.1%
繰延税金負債	1,367	836	1,114	△18.5%	+33.3%
その他の負債	3,654	5,773	5,764	+57.8%	△0.2%
負債合計	110,778	166,039	177,086	+59.9%	+6.7%
資本の部					
親会社の所有者に帰属する持分					
資本金	1,700	1,700	1,700	+0.0%	+0.0%
資本剰余金	1,559	1,585	1,610	+3.3%	+1.6%
利益剰余金	15,331	17,949	18,403	+20.0%	+2.5%
自己株式	△ 3,109	△ 3,046	△ 3,043	△2.1%	△0.1%
その他の資本の構成要素	619	734	769	+24.1%	+4.7%
親会社の所有者に帰属する持分合計	16,100	18,923	19,440	+20.7%	+2.7%
非支配持分	48	26	20	△58.6%	△21.8%
資本合計	16,149	18,948	19,460	+20.5%	+2.7%
負債及び資本合計	126,926	184,988	196,545	+54.8%	+6.2%

(注) 速報値のため、修正・変更が生じた際は当社HP上にて速やかにお知らせいたします。



連結会計期間	25/3.1Q (2024年4月1日～ 2025年6月30日)	25/3.4Q (2025年1月1日～ 2025年3月31日)	26/3.1Q (2025年4月1日～ 2025年6月30日)	前年同期比	前 Q 比
営業収益	8,674	8,980	10,296	+18.7%	+14.7%
営業費用	6,852	8,174	8,711	+27.1%	+6.6%
営業利益	1,823	806	1,585	△13.1%	+96.7%
持分法による投資利益	17	16	29	+66.4%	+75.5%
その他の金融収益	45	3	108	+141.8%	+3112.4%
その他の金融費用	8	22	14	+72.3%	△36.3%
税引前当期（四半期）利益	1,876	804	1,707	△9.0%	+112.5%
法人所得税費用	600	268	491	△18.2%	+83.6%
当期（四半期）利益	1,276	536	1,216	△4.7%	+126.9%
当期利益の所属					
親会社の所有者に帰属する利益	1,274	540	1,214	△4.7%	+124.8%
非支配持分に帰属する利益	2	△ 4	2	△22.1%	△143.4%

(注) 速報値のため、修正・変更が生じた際は当社HP上にて速やかにお知らせいたします。

PL（営業収益・営業費用）

連結会計期間	25/3.1Q (2024年4月1日～ 2024年3月31日)	25/3.4Q (2025年1月1日～ 2025年3月31日)	26/3.1Q (2025年4月1日～ 2025年6月30日)	前年同期比	前 Q 比
営業収益					
金融収益	4,145	4,686	5,020	+21.1%	+7.1%
故障保証収益	1,646	1,796	1,864	+13.3%	+3.8%
オートモビリティ関連売上	1,493	1,789	1,724	+15.5%	△3.6%
その他手数料売上	725	590	705	△2.8%	+19.4%
部品売上	447	351	442	△1.3%	+25.6%
金融資産の減損利得	147	△ 523	322	+118.7%	△161.7%
保険履行収益	-	200	-	-	-
その他	70	90	219	+212.3%	+143.1%
合計	8,674	8,980	10,296	+18.7%	+14.7%

連結会計期間	25/3.1Q (2025年4月1日～ 2024年6月30日)	25/3.4Q (2025年1月1日～ 2025年3月31日)	26/3.1Q (2025年4月1日～ 2025年6月30日)	前年同期比	前 Q 比
営業費用					
金融費用	111	145	229	+105.8%	+58.2%
故障保証原価	886	908	977	+10.3%	+7.7%
オートモビリティ関連原価	816	1,080	1,020	+24.9%	△5.6%
支払保証料	908	1,069	1,153	+27.0%	+7.9%
部品原価	340	273	328	△3.5%	+20.2%
金融資産の減損損失	-	225	-	-	-
従業員給付費用	1,594	1,703	1,796	+12.7%	+5.5%
減価償却費及び償却費	453	515	534	+17.9%	+3.7%
支払手数料	342	359	358	+4.6%	△0.4%
租税公課	257	322	357	+38.8%	+11.0%
システム運営費	243	354	663	+172.7%	+87.2%
業務委託料	202	280	357	+77.0%	+27.7%
その他営業費用	698	941	937	+34.3%	△0.4%
合計	6,852	8,174	8,711	+27.1%	+6.6%

(注) 速報値のため、修正・変更が生じた際は当社HP上にて速やかにお知らせいたします。



本資料に掲載されているIR情報は、プレミアグループ株式会社及び関係会社（以下当社）の財務情報、経営情報等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。本資料に掲載されている当社の計画や戦略、業績の見通し等は、将来の予測等に関する情報を含む場合があります。これらの情報は現在入手可能な情報に基づくものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実な要素を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があり、当社は本資料の情報を使用したことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。本資料に情報を掲載する際には、当社は細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、当社は事由の如何を問わず一切責任を負うものではないことをあらかじめご了承ください。本資料に含まれる著作物は、著作権法により保護されており、それらが無断で複製、改編、翻訳、頒布、実演または展示することは禁止されております。本資料への情報の掲載は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことは控えいただき、投資に関するご決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。